

開催記録

名 称	第2回介護保険事業計画等策定委員会
開催日時	平成29年10月25日(水) 午後1時30分から午後2時55分まで
開催場所	高田公民館 第1研修室
出席者	委員長：馬場幹雄 副委員長：丹藤正明 委員：原 敬義、横山隆司、須藤 實、邊見哲朗、根本隆男、薄 謙一、阿部明子、栗城加代子、弓田秀樹、三津谷若子 事務局：(健康ほけん課) 日吉祥晃課長、渡部 充課長補佐、介護保険係 国分政和係長、長谷川国子、高木克哉、(福祉課) 星 寿明課長、高木 朋子課長補佐、社会福祉係 鈴木睦子係長 ※欠席者：佐藤 仁、萱場博子、神村正子
議 題	高齢者福祉サービスの現状と課題、介護サービス量及び介護保険料の概算推計
資料の名称	第2回介護保険事業計画等策定委員会
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
内容	
<p>※委員の変更：(町主任ケアマネジャー会議) 穴澤房子氏から横山隆司氏へ変更 横山氏に委嘱状交付</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 委員長挨拶</p> <p>3. 協議【議長：馬場委員長】</p> <p>(1) 高齢者福祉サービスの現状と課題について 事務局より説明 (委 員) 高齢者生きがい活動支援通所事業について、課題の中で利用しやすい事業を展開していくと説明があったが、逆を言えば現状は利用しにくい課題があるというふうに考えられますが、利用しにくいとは実際にどういうことを言っているのか教えていただきたい。 (事務局) 利用しにくいという訳ではありませんが、利用者が少なくなっている</p>	

こともありますので、更なる利用しやすい事業の展開ということで記載させていただきます。

(委員) 高齢者日常生活用具給付事業について、需要がないということだが一般的に日常生活用具は誰しも使う用具なので需要がないとは考えられない。サービスを知らないということなのではないのか。広報活動についてはどのようにされているのか。

(事務局) 別事業の申請の際にも本事業の紹介はさせていただいています。また、高齢者と接する機会の多いヘルパーさんにも事業内容はお伝えしており、必要に応じて利用者の方に伝えていただいていますので、ヘルパーさんや事業所の方からの申請もごぞいます。

(委員長) 高齢者生きがい活動支援通所事業を利用されている方が、年間を通じてこの中から要介護に移ってしまった方はどの程度いるのか。

(事務局) 何人というのは把握してはいませんが、認定申請される方の中で利用されていた方もいるので、事業利用者から要介護認定を受けた方はおります。

(委員長) 認定を受ける方がいるので、事業の利用者が減ってきているということもあると思うが、PRが不足しているのか知らない人の所には行きたくないといった色々な理由はあると思うが、大変良い事業であると思いますので、積極的に事業に取り組んでいただきたい。

(委員) 高齢者生きがい活動支援通所事業について、前回の計画では「男性の利用が少ないという課題があり性別に関係のない利用の検討が望まれます」と記載されていますが、今回はその様な表現はないが、現状では性別に関する問題は発生しているのでしょうか。

(事務局) 男性の方から利用しにくいというお話はありません。性別によつての利用に関するお話も出ていない状況です。

(委員) 緊急通報システム事業について伺いたい。課題の中に「協力員3名の確保が難しくなっている」とあるが、まったくその通りであり、協力員を確保できなく設置できない方もいます。他の市町村では専門の協力員を配置して行っているところもある。今後検討していったらどうか。

(事務局) 今ほどご提案いただいた内容について、今後検討していきたいと考えております。

(委員) 高齢運転者の事故が多発している中で、免許証の自主返納された方に対する支援事業等はあるのか。

※ (所管課が異なるため副町長より回答)

(副町長) 自主返納制度に対する支援は現在もごぞいます。あいあいタクシー券を配付する事業を委託で実施しております。多いときでは150人位の実績がありましたが、現在は80人程度となっております。今後も実施していきたいと

考えています。

(委員) 返納した1年だけの助成になるのか。

(副町長) 1回だけとなります。

(委員) その後のサポートも大事になってくる。あいあいタクシーもあるが、もう少し使いやすい内容となるよう検討が必要だと思う。有効活用できるよう考えてほしい。

(副町長) 現在、地域の公共交通をどう考えるかという会議を開催しています。その中で相対的に検討していきたいと考えております。

(委員長) 次期計画は、今ほどの課題について解決策を盛り込んだ内容となっていくのか。

(事務局) 今後の取り組みの中に盛り込んでいきたいと思えます。

(委員) 家族介護用品購入助成券支給事業のおむつ券についてですが、申請にはケアマネジャーの意見等も必要であるがケアマネが付いていない方もいる。判定にも疑問な点もある。申請しやすい内容に検討してほしい。

(事務局) ご意見について、今後参考にしていきたい。

(委員) 福祉サービス事業に関して、以前は在宅介護支援センターがあったのですが、今は廃止になって事業所で委託を受けて申請等を実施しています。30年度から包括支援センターに一本化することになるが、それに関しどうなっていくのかお聞かせ願いたい。

(事務局) 30年度には包括支援センターに一本化する方向となります。関係機関にも周知が必要となってきますので、お知らせしていきたいと考えています。

(委員) 介護タクシーとは認定を受けた方が利用するタクシーですか。

(事務局) 民間のタクシーとなりますので、介護保険とは別になります。

(委員) 外出支援サービス事業と車いす同乗軽自動車貸出事業の他事業との統合を含めた見直しが必要とあるが、具体的にはどういったイメージか。

(事務局) 介護タクシーも普及してきたことから、2つの事業を統合して見直しを進めていく考えです。

(委員長) このように活発な意見が出てくるということは、利用者のニーズが多々であり良い事業でありますので、今後計画の中で利用しやすい充実した内容で策定を進めていただきたい。

(2) 介護サービス量及び介護保険料の概算推計について

事務局より説明

(委員長) 資料では数値等が細かく出ているが、グラフ等を用いて分かりやすく表示してほしい。

(委員) 自立に向けた取り組みで、認定率の低下に繋がり結果として保険料が抑制

されるということだが、言葉では分かるが具体的には何をどうしていこうということなのか。

(事務局) 例えば、手法としまして、地域ケア会議の中で軽度の認定を受けている方に対して、自立を阻害している要因を見つけ出し、その課題に対し専門職の方々のアドバイスを頂き改善に向っていく手法を今後行っていきます。会議の目的は対象者のQOLの向上であって、その様な状態となっていけば要支援からの卒業にも繋がり、そのおまけとして認定率の低下や給付費の抑制にも繋がっていきます。また、介護保険以外の必要とする地域課題も見えてくるので、その整備の検討も進めていくことになります。

(委員長) 市町村によってサービスの差はあるのか。美里町はどうか。

(事務局) サービス内容、環境において当町は恵まれた環境にあると思います。施設、在宅サービスも整備されております。もっとより良く在宅を支援するためのサービスを充実させていけば良いと考えています。

(委員) 現在の概算の保険料は、6期計画から比べると高くなっている。今後の推移を見て再計算していくということだが、赤字になっては困るがもう少し抑えられる金額で現実的などころで判断してほしい。

(委員長) 将来財政破綻はしないのか。

(事務局) 今回の計画は3年間の計画ですので、3年間保険料が固定になるということになります。万が一赤字になった場合は、破綻ではなく借入れをして、その分を次期計画に上乗せして集める必要が出てきますので、介護保険として破綻するということとはございませんが、そのつけが後ろに回ってしまうということになりますので、アンケート結果などを参考にし、どのようなサービスが必要なかを整理した上で、適切なサービスの中でバランスの取れた保険料となるようにしたい。

(事務局) 次回の策定委員会は何通りかのパターンをお出しし、その中で検討していただきたい。また、計画書の素案とした形で整理してお出ししたいと考えています。

(3) その他

- ・ 次回の委員会開催予定 11月の最終週で調整する

4. 閉会

以上